

澤田 のびのび野球ですか。

谷内 そうですね。

澤田 話は戻りますが、そもそもなぜ西高に来たのかというところだけお聞きしたいのですが。

谷内 文武両道でやりたかったというのが一番ですね。どちらも中途半端にしたくなかったですし、しっかりどちらも取り組めるという点で、西高をまず意識したということと、あとは公立高校に行って私立と勝負したいという気持ちがあったので、それで決めました。

澤田 中学のときも野球を。

谷内 はい、やっていました。

澤田 中学はどちらでしたか。

谷内 清泉中学校です。軟式でやっていました。

澤田 そのときもピッチャーですか。

谷内 そうですね。最後はピッチャーです。基本的には内野手ですけど。

澤田 ショートというのは一番ややこしいところではないですか。

谷内 はい。

澤田 今回ホームページで記事を見たときも、本当に書いてあることが、センスが良くて、実直に、まじめに、本当に今日お話ししても、本当に素直で、こんなショートがいたら安心ですよ。

谷内 本当ですか(笑)。ありがとうございます。

澤田 私のチームは、ショートがうまいんだけど、ちょっと鼻が高いんですよ。扱いにくくてね(笑)。

谷内 そういうショートはたくさんいます。

澤田 文武両道でいきたいという話でしたが、それは大学を見据えていたのですか。

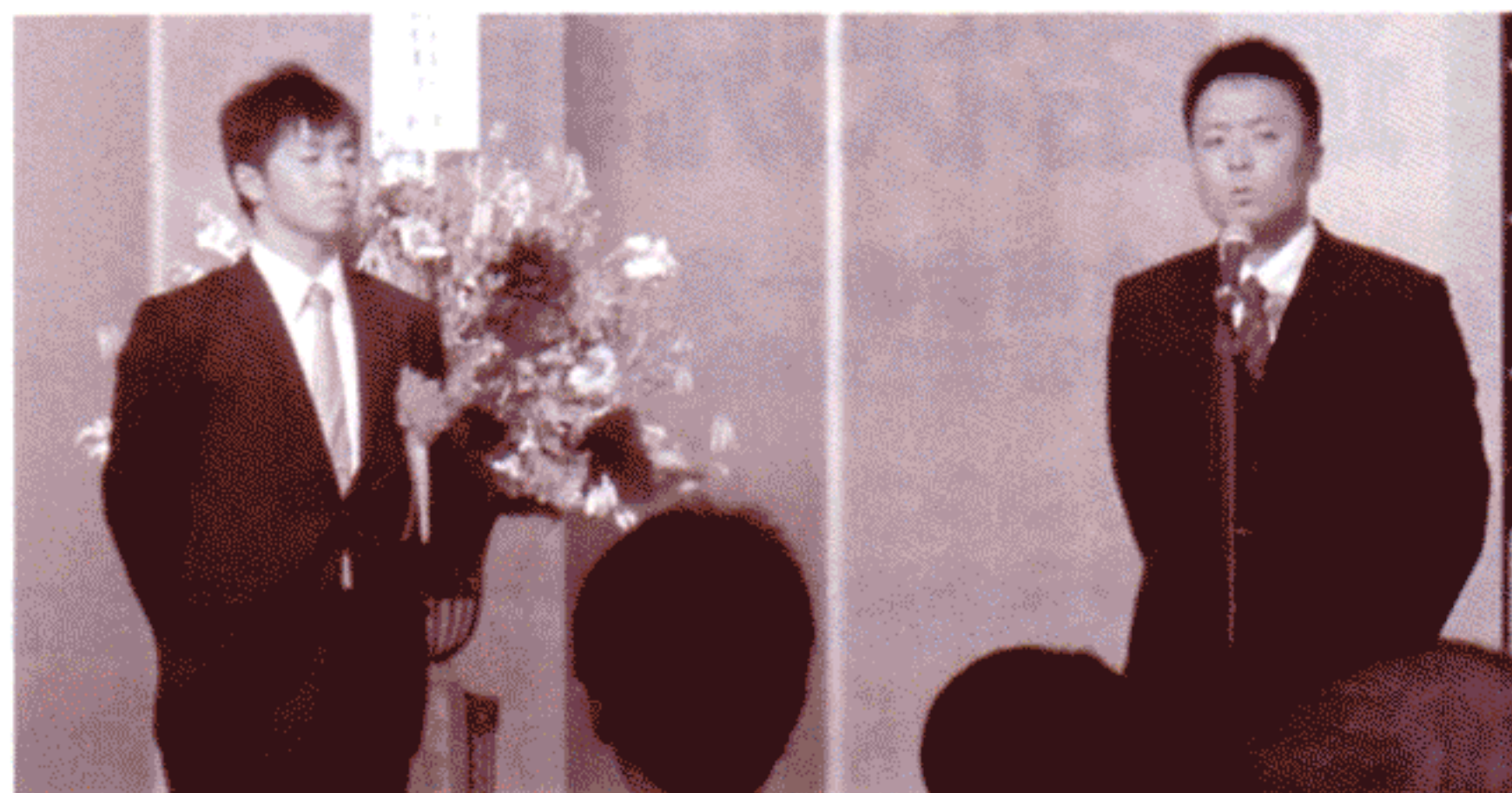
谷内 いえ、大学では野球をするつもりは特になかったので、高校野球で終わりがなという気持ちでやっていました。ところが、3年の春に優勝して、もっと上のレベルでやってみたいという気持ちが芽生えたので、大学でも野球をすることにしました。

澤田 実際にプロに行くというときは、スカウトが来るではないですか。やはり意識しますか。

谷内 しないと言ったらうそになりますね。どこの球団がいるとかは分かりませんが、多少見られていると思いつながらやっていました。

澤田 緊張して手が震えるとかはなかったですか(笑)。

谷内 そうですね、最初の方はやはり意識するとプレー



激励会にて井村監督からエールを受ける谷内選手

がすごく崩れましたが、そんなことをして自分の評価を下げるくらいだったら、そんなことは考えないで自分ができることをしっかりやって評価された方がまだましだと思って。

澤田 スカウトはどれくらい前から来るのですか。

谷内 それはちょっと分からないですね。どこで見ているかも全然分からないですし。

澤田 スカウトを意識したのはいつごろですか。

谷内 最終学年になってからは常に見られている、見ていなくても見られているつもりでやっていました。他の選手を見にきていても、自分の動きが目に付いてもらえるように。そういうことも意識しながらプレーしてましたね。

澤田 でも6位というのはすごいですよね。

谷内 そうですね、ぎりぎりですけど。

澤田 ドラフトでは12球団あって1巡目2巡目とあって、やはり呼ばれるかなと意識していましたか。

谷内 そうですね。呼ばれるつもりで準備はしていましたが、正直呼ばれるかどうか分からなかったので、下位の方で心の準備をしながら。

澤田 待っているのは結構つらいですよ。

谷内 つらいですね。

澤田 他の球団からもオファーはあったのですか。

谷内 一応、あと2球団から調査書は来ていました。ヤクルトを含めて3つですね。

澤田 でも無事決まって、これからプロになってどういふことを思うかということをお聞きしたいのですが。

谷内 今までいろいろな方々に支えてもらってこういう形になったと思うので、活躍して良い結果を報告することで少しでもその方々に恩返しをしたいなと思いますし、金沢西高校初のプロ野球選手ということなので、少しでも西高の名を全国に売れるようにやっていきたいなと思います。

澤田 どうもありがとうございました。

谷内 ありがとうございました。

澤田 今お話を聞いていても、本当に素晴らしい選手ですね。

(構成:編集部 敬称略)



インタビューー 澤田 幸宏